

事業報告書

1 事業名	ゆいまーる事業 「生活困窮世帯への食糧品無料配布及び高齢者の居場所提供」
2 事業実施期間	2022 年 7 月 ～ 2022 年 12 月
3 事業実施内容 *具体的に記入してください。	<p>(実施日、場所、対象者、参加人数、内容、周知方法など)</p> <p>○実施日：各週1回実施 火曜日(女性) 金曜日(男性) 予備日 土曜日 朝 9時30分～10時30分(年齢や国籍問わず支援)</p> <p>○場所：那覇市牧志公園内</p> <p>○対象者：ホームレス、障害者、高齢者、若年生活困窮者</p> <p>○参加人数：女性 60人～65人 男性 65人～70人 月 300人以上</p> <p>○内容：1.生活困窮世帯への食糧品無料配布</p> <p><流れ></p> <ul style="list-style-type: none">①整理番号を受け取る②スタッフの呼びかけで、10人程度の人数で並んで待つ③全員消毒とアンケートに協力する④全員にパンかレトルトごはんを受け取る⑤並べてある食糧品から一人3品を受け取る⑥お楽しみ袋(マスク、コーヒー、ゆで卵、お菓子)を受け取る⑦支援された、生活用品や洋服を選び必要な人は受け取る⑧バナナを一人2本～4本受け取る⑨食糧が残っている場合、時間のある人は二巡目の受け取りに参加 <p><食糧支援先></p> <p>※那覇市社会福祉協議会 沖縄子ども未来ランチサポート</p> <p><フードドライブ支援先></p> <p>※牧志郵便局、大名郵便局、末吉老人憩いの家、壺川老人憩いの家</p> <p>2. 高齢者の居場所提供</p> <p>コロナ禍で孤立から孤独を感じている高齢者の人が集まり、食糧配布を待っている間、友達になった人と、楽しくおしゃべりをして公園に来る事が、楽しみだと多くの人の声が聞こえる</p> <p>○周知方法</p> <p>ホームページを作成毎月の活動日を掲載/ 前月に活動日に白板に表示し告知する/ 口頭で呼びかけたり、ルーズリーフに翌月の活動日を記入、お楽しみ袋に入れ配布/</p>

<p>4 事業実施における数値目標 (中間報告書で示した数値)</p>	<p>誰一人取り残さない活動 「食糧配布年 29 回 (月 5 回×5 か月=25 回 月 4 回×1 か月) 実施する」</p>
<p>5 上記 4 の数値目標の達成度</p>	<p>100%達成</p> <p>(理由： ①各週に変更した事や、フードドライブの支援先が増えた事で「誰一人取り残さない」活動以上に、食糧品を二巡して提供する事ができた。一人 3 品～5 品の食糧品を提供。 ②困っている人は、サポートセンター、社会福祉協議会 CSW、地域包括支援センターへ連携し保護、支援ができた。 ③ボランティアの方の支援で、ホームページ、Twitter、LINE を立ち上げる事ができ、活動の発信ができた事で、困っている人から「助けて」のメッセージを受け取る事ができた。 ④生活用品の支援を受け取る事ができ、洋服やタオル、石鹸、消毒液、マスクなどを提供できた。)</p>
<p>6 事業の成果</p>	<p>(対象や地域、社会にどう貢献したかなど)</p> <p>那覇市の生活困窮世帯や高齢者は、この 3 年間のコロナ禍や食糧品の値上がり、年金の引き下げと経済的にもかなり厳しく、困窮世帯がさらに困窮状態となり、かなり厳しい生活状態にあります。 生活困窮にある市民に食糧の提供する事で、多くの人の食の手助け、心の安らぎを提供できました。</p> <p><一部事例></p> <p>○20 代女性、家出をしホームレスとなり、公園で寝泊り。食糧が貰える事を人に聞いて参加。その日にパーソナルサポートセンターへ連携し保護。</p> <p>○30 代女性、コロナ禍で失業、食糧が貰える事を聞いて参加、その後「パートの仕事が見つかりました」と感謝の連絡あり。</p> <p>○20 代女性、DV で家出、食糧が貰える事をホームページにて知る。ラインで助けを求めて参加。その日に社会福祉協議会 CSW に連携支援。</p> <p>○50 代の男性、10 年ほど前に本土から来沖。ホームレスとなり生活保護受給、去年故郷に帰郷。無賃宿泊で逮捕、弁護士さんから SOS の連絡あり。生活保護課に連携支援、現在は沖縄にて生活。</p>

	<p>ゆいまーるの会は、年齢や性別、国籍問わず、支援して欲しい人と行政の架け橋の役割をして、困っている人へ直接支援できる事で社会に貢献しています。</p> <p>食べる事と人との繋がりを持つ事は、生きがいにもなります。</p> <p>「衣 食 住」最低限度の市民生活ができるよう、支援しています。</p> <p><マスコミ></p> <p>○NHK 「シリーズ本土復帰 50 年 最終回 これからの沖縄を語ろう」</p> <p>初回放送日：2022 年 12 月 2 日</p> <p>https://www.nhk.jp/p/ts/Y73X39NG78/episode/te/NR1MN5RWK4/</p>
7 評価	<p>① 良かった点、工夫したこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ●食糧品の提供が「誰一人取り残さない」活動ができ良かった ●困っている人、助けを求めている人を行政に繋げる事ができた ●食糧品のみならず、生活用品の支援ができた ●利用者が公園を汚さない活動に積極的になった。 ●利用者が元気になり笑顔が増え、挨拶が増えた ●フードドライブの協力先が得られ食糧品が増えた ●SNS を利用して、活動を発信できた事、SOS の声が聞けるようになり、支援できた ●マスコミに取り上げられた事で支援者が増えた <p>② 苦労したこと、改善点、今後に活かしたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ●雨天や台風の際にも食糧を求めて来ます 雨天の際の食糧品の配布が難しく、隣の駐車場を利用し配布した事 ●雨天の際にも、配布ができる場が必要 ●今後の安定した活動資金が必要な為、PR 活動が必要
8 今後の展開 (継続、内容変更、終了など)	<p>沖縄県は3人に一人が貧困の状態である限り、支援の活動は必要です。</p> <p>子どもから大人まで、市民が安心して生活できる状態が望ましいのですが、なかなか厳しい世の中です。微力ながらも、支援活動を継続いたします。</p>

<p>9 その他の意見、感想など</p>	<p>沖縄県の子どもは、3人に一人が貧困と言われています。 貧困は連鎖する事もあり、なかなか抜けきれない状態にもなります。沖縄県は他の県と違い、芸能や食でも人も、豊かな県民性の島国です。沖縄県独特な取り組みで、貧困に向き合う事が必要と感じます。 毎日食べる事に心配している市民もある中で、一人お椀一杯の食糧が捨てられている状況は異常です。捨てずに譲りあう事が必要です。 ゆいまーの会は、支援して欲しい人と支援したい人を繋げる役目をしていません。誰に「助けて」といったらいいのか、わからない人のSOSを聞きます。生活上の悩みを行政に繋げ支援を継続していきます。 感謝) この度のチャレンジ助成金を受け、困っている多くの那覇市民が助けていただきました。ご協力に感謝申し上げます。 「ありがとうございました。」</p>
----------------------	--

10 事業実施に関して協力（連携）した行政機関・他団体の有無。該当する箇所に☑等を記入してください。）

行政の協力（☑企画立案に協力 ☑資金提供 ☑告知などの協力
その他（ ））

他団体の協力（☑企画立案に協力 資金提供 ☑告知などの協力
その他（ ））

無し

行政や他団体への今後の連携についての期待・要望など

●チャレンジ助成の支援を受け資金の心配も無く、食糧の提供やスタッフの活動資金、消耗品費、ガソリン代を活用でき大変助かりました。

今後もボランティア団体への行政からの支援をお願い致します。

●困っている人、を支援する為には、行政との繋がり必須です。

今後も連携いたします。

●他団体との繋がり3団体と連携しています。今後も継続いたします。